

地域づくり懇談会簡易議事録 【田中地区】 (R7年10月6日実施)

参加者 : 合計 67名 内訳: 地域づくりの会29名、区長7名、一般市民3名、職員28名 (関係課21名、地域づくりサポーター7名)

傍聴者 なし

懇談テーマ 持続可能な田中地区のための”支えあい”について

グループ	出された意見	地域で出来ること	市で出来ること	今後の市の方向性	関係部 (関係課)
生涯学習 部会	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族、地域コミュニティの希薄化、若者のコミュニケーション能力の低下が心配。 ・一方で、一部の若者は積極的に地域コミュニティへの参加がある。 ・年配者も若者との交流の機会を模索している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分館等のイベントでの親子連れ、3世代での参加、コミュニティの醸成につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯へのお困りごとを手助け →福祉課「高齢者日常生活サポート事業」を開始 ・協議会報等を通じ分館活動のPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代が交流できるきっかけづくりを地域を含め関係課等と連携を図り検討する。 	企画振興部 (地域づくり支援課)
青少年 育成部会	<p>①通学路、公園の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校前の赤舗装の道路(通学路)、不動公園(草刈)、歩道橋(雪かき) →現在誰がやっているのか不明 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来そうな人を公募、時期、手当等のルールを検討する。 ・みんなが利用する場所なので区で話し合う。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で出された意見を集約する。 	企画振興部 (地域づくり支援課)
	<p>②見通しの悪い通学路の自転車走行の危険性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校中、自転車運転の中学生と小学生がぶつかる危険性あり。 ・登校時は、見守り隊あり。下校時は、見守り隊なし。 ・自転車教室 →田中小実施しないので中学生で初めて自転車に乗る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の練習ができる機会や場所がなく検討する。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で出された意見を集約する。 	
	<p>③全世代共通イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分館交流スポーツ大会、ポッチャ競技で小学生の参加があった。 ・ポッチャの推進 →参加者集めに苦慮している。 ・滋野地区の巨大紙相撲大会のようなことができればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全世代が集まる既存のイベントでポッチャの体験や、認知度を上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポッチャの普及推進に努めている。 ・ポッチャの用品は市で貸出あり。 ・会場は予約が可能。 ・ポッチャの大会(福祉課) →高齢者、小学生が地域と関わりあえる大会を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で出された意見を集約する。 	
生活福祉 部会	<p>①生き生きサロン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容が女性向けに偏っているため、男性参加が少ない。 ・男性参加者が固定化している。 ・ポッチャの補助により活動が活発になったが、高齢化による運営に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男性が興味を持ちやすい軽運動や趣味活動の取入れ。 ・固定化メンバー以外の新しいメンバーが参加しやすい雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区で行っている内容等の情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な運営体制づくりのため、地域主体の通所型サービスB事業への移行を進めるとともに、男女問わず参加しやすい環境づくりに取り組む。 	健康福祉部 (福祉課)
	<p>②独居高齢者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員による訪問活動で状況把握はできるが、一人一人の見守りは難しい。 ・地域コミュニティの支えあい体制の構築は求められる。 ・核家族化が進む中、独居高齢者が安心できる仕組みづくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所同士の声掛け、日常的な見守りといった小さな支えあいを積み重ねる。 ・孤立しそうな方を地区内で情報共有、何かあった時の支えあい体制の構築。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員との連携強化や、情報共有の仕組みの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等日常生活サポート事業や生活支援コーディネーターによる地域の支えあいの仕組みづくり活動を推進し、見守り体制の充実と地域力の向上を図る。 	
	<p>③防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災組織が整っているが、実際に機能するか疑問。 ・防災訓練をとりあえず「やった」になっていないか。 ・日時・内容が決まりきった防災訓練はどうか? 想定外の事態を踏まえた実践的な訓練も必要では。 ・防災士等資格取得について市の支援も必要ではないか。 ・避難時のトイレなど心配なことが多い。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時用トイレを実際に見てみる、触れてみる機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地事例を参考により実効性のある避難訓練の方法や体制づくりを検討する。 	総務部 (総務課)

グループ	出された意見	地域で出来ること	市で出来ること	今後の市の方向性	関係部 (関係課)
産業観光 部会	①海野宿 ・イベント開催やお店も増えて賑わいが出たが、元々の住人からは重伝建の登録当時の思いが変化している。 ・昔ながらの風景や景観が失われている。 ・重伝建の住居と住む家の維持は大変。	・建物を維持していくうえで海野宿の外から入ってくる人への説明を行う。 ・生活と観光の共存を考えていく。 ・地域でのルールづくりを移住者や新規事業者へ周知していく。 ・重伝建の建物所有者へのアプローチを検討する。	・生活と観光の共存に向けて、地域住民や関係者との話し合いの場を設定。 ・地域でのルールづくりを移住者や新規事業者へ周知していく。 ・修理や空き家に関する定期的な相談の場を設ける。	・みんなが納得できる「生活と観光の共存」の調和のとれた海野宿（本海野区）の確立を目指す。	企画振興部 (文化・スポーツ振興課) ・ 産業経済部 (商工観光課)
	②田中駅 ・R8.3月にSuica導入で無人化となることへの不安。 ・駅ロータリーの花壇の水やりや維持管理が高齢化により負担がかかる。 ・高校生ボランティア等が協力しているが今後の維持管理が課題。	・田中駅ロータリー花壇の継続的な維持管理に向けた運営。	・Suica導入後の田中駅無人化に伴い、今後のあり方について観光協会としなの鉄道、市で協議中。また、駅舎の空きスペースの活用も検討中。 ・Suica導入に関する市民への周知。	・市の玄関口として、誰もが快適に活用できる田中駅の確立を目指す。	産業経済部 (商工観光課)
	③商店街 ④特産品 ・ほとんどが店舗兼住宅となっているため、貸出、売却が困難。 ・マルシェ等のイベント時はにぎわうが普段の商店街利用者は少ない。 ・「ワイン」が特産品になりつつあるが値段が高い。 ・ワインのお店での購入や、店舗で飲める場所が必要。 ・特産品を活用して、ご当地飯のようなメニューを考案したらどうか。	・空き家、空き店舗所有者へのアプローチ。 ・商店街活性化に向けた地域での話し合い。	・空き家・空き店舗の活用に向けて、専門的知識を有する関係者との調整の場を設定。 ・空き家バンクの活用の促進。 ・商店街活性化に向けた地域と関係者との話し合いの場を設定。 ・区と連携のうえ、事業者の誘致など。 ・田中まちなかフリーマーケット&マルシェでは市の職員もスタッフとして参加している。	・空き家・空き店舗の解消を図り、特産品等を活用し魅力ある商店街を目指す。	企画振興部 (企画振興課) ・ 産業経済部 (商工観光課)

地域づくり懇談会簡易議事録 【滋野地区】 (R7年10月8日実施)

参加者 : 合計 53名 内訳 : 地域づくりの会10名、区長8名、市議2名、一般市民1名、職員32名 (関係課21名、地域づくりサポーター11名)

傍聴者 なし

懇談テーマ ① 滋野駅正面の整備について、 ①-①' 魅力ある地域活動の発掘 (地域づくり経験交流会) 座談会

出された意見	地域で出来ること	市で出来ること	今後の市の方向性	関係部 (関係課)
<p>①滋野駅の正面の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ではもうやらないという手段もあるが、先人、諸先輩方が築いたものを残したいという気持ちの反面、人力での限界があり、委託する予算もない。 ・しなの鉄道へ返還するにも原状復旧する予算もない。 ・滋野駅は滋野の玄関口。 ・喫緊の課題は美化(景観の維持)であるが、景観の維持には費用がかかるので、3者(しなの鉄道・里づくりの会・市)で地元でできること、しなの鉄道でできることを話し合うべき。 ・今後も景観の維持を続ける場合、ボランティア活動では限界がある。従業員が利用していることも踏まえ、企業を巻き込み協力を要請してはどうか。 ・滋野駅を愛する会を復活させ若者に参加してもらおう。 ・電車から見通せることを利用して、企業広告などで広告収入を得たらどうか。 ・広告で、雷電のPRをしてはどうか。 ・通勤通学利用の方を考慮し、景観面も大切だが安全面(夜暗くなること)も考えることは大切。 ・滋野駅は滋野地区においての唯一の公共交通機関であり、滋野地区としても何とかしたい思いはある。 ・該当の場所は奥に入った所にあり、状況を把握していない人もいる。 ・所有権があるしなの鉄道が管理すべきではないか。 ・しなの鉄道と交わした当時の記録をもう一度きちんと整理すべきではないか。 ・しなの鉄道と話をするにしても、まず滋野地区としてどうしていきたいかの方向性を明確にしてから話を持っていくべきではないか。 ・春になると撮り鉄が多く集まる。その人たちの協力を募るのはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を最小限にして、できる範囲で実施する。 ・しなの鉄道との話し合い。(里づくりの会) ・駅前の場所を有効に使えないか検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地がしなの鉄道所有のため現状は厳しい。 ・「滋野駅を愛する会」から始まった、滋野駅前整備の経過を整理する。 ・しなの鉄道・里づくりの会との話し合いの場を設定する。 ・過去の経過を遡って調べる。 ・使用貸借の範囲について明確にさせる。 ・返還の条件(現状回復など)を確認する。(現状回復など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を立ち上げた時と同様に里づくりの会、市、しなの鉄道の3者で協議を行い、可能性を模索する。 ・これまでの経過(貸借契約、覚書)と現状を確認したうえで、地域で何ができるのか、何をやりたいのかを明確にし、しなの鉄道と管理に関する役割分担について協議を行う。 	<p>産業経済部 (商工観光課)</p>
<p>①-①' 魅力ある地域活動の発掘 (地域づくり経験交流会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原口区 成立縄文祭(春) 乙女平 夏祭り(コロナ禍後復活) 桜井区 夏祭り(公民館で開催) 今年は神社横の櫓を立てず公民館で開催 ・高齢化と若者の地元離れ。区の行事に若者が参加しない、区の役員の成り手不足。若者が役員を受けない。また、若者は仕事のある所に出て行ってしまふ。 ・縦のつながりも大事だが、年齢に近い横のつながりを作ると行事に参加しやすくなる、との事例が紹介された。 ・高齢化により空き家が増加しているので、借りたい人と貸したい人の結び付けをしてほしい。 ・市のどの部署に相談していいのかわからない。 ・荒廃農地の対策として、民間企業との連携が紹介された。担い手不足にも寄与している。 ・区の運動会をどのように運営しているか・各区のイベントの人集めはどのようにしたらよいか、各地区から運営状況の共有をしたい。 ・昔から継続できている区については、時代の流れにあわせて内容、方法を柔軟に変えて工夫しながら運営していることが共通のキーポイントとして見えた。 ・日頃からのコミュニケーションがなければ行事を行ったからと言って参加にはつながらない。より良い関係性が区の活性化につながる。 ・各区で工夫した行事を行っているが、滋野地区としての行事がないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り夏祭りは親子で楽しめる、外へ連れ出せるイベントを企画する。(イベントの簡素化もよいが、古くから実施している櫓建てなど、風情があるものは企画をするときに考えてもらいたい。) ・事例を参考にする。(区) ・区民からの相談を市につなげる。(区長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりサポーターの有効活用。 ・就業の場の確保。(継続) ・空き家バンクや空き家片付けの補助等の実施。(継続) ・区民等から相談があった時、部署に関わらず受け止め、適切な部署を紹介すること。(継続) ・荒廃農地対策と就農支援。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりサポーターの認知度が低く活用されていないため周知を図る。 ・里づくりの会の会議等にサポーターが参画する。 ・地域活動について協議会報等を活用し優良事例としての周知を検討する。 ・地域づくり協議会と連携した空き家対策の実施を進める。 	<p>企画振興部 (企画振興課) (地域づくり支援課)</p> <p>産業経済部 (農林課) (商工観光課)</p>

地域づくり懇談会簡易議事録 【祢津地区】 (R7年10月14日実施)

参加者 : 合計 67名 内訳: 地域づくりの会12名、区長12名、市議会議員4名、一般市民2名、職員37名 (関係課30名、地域づくりサポーター7名)

傍聴者 なし

懇談テーマ ①御堂地区、インターチェンジ、宿泊施設等を利用した地域活性化について ②せせらぎ公園の今後について

出された意見	地域で出来ること	市で出来ること	今後の市の方向性	関係部 (関係課)
<p>①御堂地区、インターチェンジ、宿泊施設等を利用した地域活性化について</p> <p><宿泊施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設のイメージ、概要を知りたい。 ・大きい金額を投入されるので、地域住民も日常的に使える施設であって欲しい。 ・地域の才能を持った人達の披露の出来る場にして欲しい。 ・構想は知っているが、具体的などころが見えてこない。 ・単に宿泊施設がないからつくるのではなく、どう地域が活性化されるか。 ・地域にとってどのようなメリットがあるか。 ・借金をきちんと返せるか。 ・一約20年で返済予定。 ・宿泊交流拠点施設の物販機能は、道の駅との競合を避け、差別化が必要であると感じる。 ・施設利用者のターゲットを更に絞って検討したらどうか。インバウンドなら和風がよいと思う。 ・温泉機能があった方が良く考える。 ・地元意見を取り入れる手法として、コンソーシアムをつくる過程で、地域の方と民間事業者が協業できる仕組みづくりをした方がよい。 ・地元可愛される施設となるよう検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でも宿泊施設に対する話し合いを行う。 ・観光プログラムの検討過程におけるアイデアの提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアムを早い時期につくり、地域の方の意見をいただく。 ・メリット等については、行政側が一方向的に示すのではなく、地域も交えて見出し、目指していく。 ・観光プログラムの検討。 ・地域ガイドの育成。 ・地元意見の聴取。 ・地域に愛される施設となるため、地域割引などの検討。 ・地域の皆さんの声をお聴きする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアムに地元からも参画し、活性化に資するエリアとしていく。 ・地域と一体になった地域づくりを進めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画振興部 (企画振興課) 産業経済部 (商工観光課)
<p><バイパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイパスはカーブをゆっくりとされたい。 ・バイパスは民家のそばを通らない状況にしてほしい。また、横堰地区は落雷が多いので避雷対策や環境保全に努めて建設して欲しい。 ・未来につながる事業なので、早めに作ってほしい。 ・交通面が安全になるように迂回してほしい。 ・小学校や住居の妨げにならないようにしてほしい。 ・バイパスを絡めてせせらぎ公園の活性化を図りたい。 ・バイパス道路が想定だと小学校の周辺を通る (あるいは通学路を分断する) ので交通安全を徹底してほしい。 ・成の満水なども踏まえて、バイパス道路建設による土石流等の災害なども考慮してほしい。 ・狭い道路においてスピードを出す車の分散や、大型トラックの工場へのアクセスの改善が期待できる。 ・バイパスができてこそちらを使ってもらえるのか疑問。 ・バイパスが出来たことにより現在の県道 (東御嬢恋線) が市道になった場合、除雪や除草等の道路管理への影響が心配。(県道が市道になった場合の懸念) ・(バイパスについて) 上記メリット、デメリット等の関係区の住民への十分な説明や、しっかり意見を聞くことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係区と個別の意見交換。 ・意見を集約できるような組織づくりの検討をする。 ・整備に伴い環境が変わったときの地域資源をうまく活かして地域の活性化をしていく。 ・バイパスが出来たときに地域をどうしていきたいか、地域住民の夢のようなことでもいいので聞かせてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、関係区と個別の意見交換。 ・地域の皆さんの声を聴ける組織の立ち上げ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明、意見の聴取等、継続してバイパス構想を検討していく組織の中で、協議、検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市整備部 (建設課)
<p><御堂地区></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワインテラス御堂のトイレを使いやすくして欲しい。 ・一平日や時間外も使えるように検討して欲しい。 ・ワインやスポーツを通じて御堂が活性化していると感じている。しかしながら、新たに開設された「ワインテラス御堂」などを市外の方はもちろんのこと、地元の方にも知ってもらう必要がある。 	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの開放について、指定管理者との協議により対応済み。 ・施設案内板 (仮設) を設置済み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御堂地域活用構想に基づき、施設を核とした地域活性化に向けて地元協議会と取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業経済部 (農林課)

出された意見	地域で出来ること	市で出来ること	今後の市の方向性	関係部 (関係課)
<p>②せせらぎ公園の今後について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道を作って欲しい。 →子どもたちが遊びやすくするため、BBQ等で利用しやすくするため。 ・ワインテラス御堂からせせらぎ公園への人が流れる取組みや環境の整備、導線の確保。 →BBQやキャンプしてその場で飲めれば、より消費喚起に繋がるのでは。 ・葎が茂っていて子どもたちが遊べない。 →1級河川で県所有なら県へ要望して欲しい。 ・あまり環境を整えすぎるとごみが増えるのではないかと。 →ごみ箱の設置等整備してないから現状を保っている。 ・飛翔会での草刈り、市では年2回の草刈りと仮設トイレの設置をした。 →通年設置、また、よりきれいなトイレを希望。 ・小学校の生活科の授業では1・2年生が年1回川遊びをしている。 ・キャンプをする人もいるが、設備が整っていないと汚されてしまう原因にもなる。 ・以前は区の行事で魚つかみ取り大会やマレットゴルフ大会をしたが、今はしていない。 →もう少し整備しないと使いにくい。 ・整備してくれたら皆が使うかと言うと分からない、利用できる何かがほしい。 ・マレットゴルフ場としては使えないか？ →9ホールしかないで他に18ホールある中で使いにくくなってしまった。 ・地元でもせせらぎ公園を利用するようにしていかないとけない。 ・付近の巨木が公園を暗くしているため、全体的に暗い感じがする。 ・バイパスに絡めて御堂やせせらぎ公園をセットとして考えて、ワインテラスでワインを飲んで、せせらぎ公園でオートキャンプなどセットで活性化を考えるのもよいと思う。 ・仮設トイレの使いにくさや上下水道について課題を感じている。 ・簡易的なものでも対応できないか。 ・上田市の美穂ヶ池市民緑地のような活用を検討したらどうか。 ・オートキャンプ場として活用することはどうか。 ・せせらぎ公園の使い方としてキャンプ場など。サウナを設置しても。 ・（お金がかかるが）右岸と左岸を繋いでより広く使うことはできないか。 ・ワイナリーと一体的な活用。 ・市だけでなく県などにも働きかけ、当時のきれいな河川を取り戻せるようしっかりと河床整備をしてもらいたい。 ・マレットゴルフ場の残骸（石など）がそのまま残っており草刈りがしにくい。 ・トイレ・水道の整備。 ・上記の整備を個々に行うのではなく地域で考え、声を上げていくべき。 ・家族で行っても一人で行っても安心して楽しめる公園に。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが遊べるように葎を抜くなど河川の整備（現在も毎年実施） ・飛翔会での草刈り（継続） ・飛翔会での草刈り・河床整備（継続） ・地域で考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園内の草刈り。（既に実施） ・県管理のため葎を除去する時期や場所等の要望があれば市管理係を通じ県へお願いする。但し作業は、濁水期。（10～5月）（建設課） ・祐津小学校では、1・2年生の生活の授業で自然体験の場として利用している。 →7月2週目に整備。3週目（1年）4週目（2年） →場所が少し遠いため、小遠足のような授業となる。 ・水道やトイレの整備について、費用対効果を踏まえつつ、トイレの場所や整備の手法について検討する。 ・草刈り、仮設トイレの設置。（継続） ・県への河床整備要望。（毎年実施しているが、さらに広い範囲の実施を要望する） ・中長期的な視野の下で、開発や来訪者受入が活発となるよう御堂地域から横堰地区（宿泊施設）までの広域的なランドデザインの中で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈、仮設トイレの設置を継続する。 	<p>総務部 (総務課)</p>

地域づくり懇談会簡易議事録 【和地区】 (R7年10月20日実施)

参加者 : 合計 63名 内訳: 地域づくりの会5名、区長14名、市議会議員4名、一般市民1名、職員39名 (関係課32名、地域づくりサポーター7名)

傍聴者 なし

懇談テーマ ① 伝統行事・近所づきあい・支えあいについて ② 兎玉山整備について

出された意見	地域で出来ること	市で出来ること	今後の市の方向性	関係部 (関係課)
<p>① 伝統行事・近所づきあい・支えあいについて</p> <p>○消防団の確保について</p> <p>・団員の確保に苦慮している。区の役員も交えて取り組んでいるが、まず保護者の理解が得られにくい。原因としては、地域コミュニティの希薄化も背景にあると考えられる。</p> <p>・消防団員勧誘のハードルを下げるため、定年制の導入も一つの方法ではないかという意見もあるが、一方で定年によって団員が減少する懸念もある。</p> <p>・ポンプ操法大会についても負担を軽減できるような運営方法が望まれる。市内では和地区のみ予選を実施している現状もあり、団員や家族の負担が大きい。</p> <p>・消防団の高齢化により、若手を勧誘したいが勧誘する機会がない。</p> <p>・勧誘しても断られてしまう。断られる原因として活動参加による負担が大きいため、ポンプ操法大会の廃止や定年制の復活等で負担を減らせないか。</p> <p>・消防団員の確保が困難、消防団員の入れ替わりがなく辞められない、団員勧誘に行っても親に断られる、地域に若い人たちがいない、地域(区)ごと団員数に差がある。</p> <p>・仲間同士で消防団へ入団することが多かったが、現在は地域のつながりが希薄でなかなか消防団へ入らない。</p> <p>・どの地域でも消防団員の勧誘は難航している。</p> <p>・消防団のイメージが悪い(早朝からのポンプ操法練習、お酒を飲んでばかり…)、ひと昔前のイメージで見られ、家へ訪問しても本人より親に断られるケースもある。</p> <p>・参加意識の欠如、やりたくないという気持ちが高い。</p> <p>・区長自身も団員経験者だが、40年ほど前は消防署でポンプ操法を教わるときに署員から高飛車な態度をとられた。なぜ軍隊のような規律なのか。消防署があるのに消防団が必要なのか。と当時は感じた。</p> <p>・一方でメリットもあり、田沢区では新規就農で若い人が、横の繋がりを得るために消防団に入ってくれる。</p> <p>・災害時にはひとりでも多くのマンパワーが必要。</p>	<p>・消防団員には区の役員を免除するなど、負担軽減を進めている。</p> <p>・引き続き団員の負担軽減を検討する。</p> <p>・区民への呼びかけ、各地区で検討委員会を開催し、消防団経験者の役員免除や6年～7年スパンでの交代で全員に担ってもらう検討をする。</p> <p>(活動がハードや飲酒が多いイメージがあり、そのイメージの払拭)</p> <p>・地域の役員でもある、防災班と消防団の連携を図り、入団を促す方法ができるか検討する。</p>	<p>・負担軽減策として、ポンプ操法の運営方法の改善や、消防団協力事業所表示制度による企業からの加入促進を進めている。</p> <p>・団員に対しては温泉券の配布や、県の消防団員カードによる加盟店での割引制度などの優遇策もある。</p> <p>・これらのメリットを周知しながら、団員の負担軽減に取り組む。</p> <p>・市報でのPR。(実施済み)</p> <p>・消防団協力事業所表示制度の紹介。(入札等の加点)(実施済み)</p> <p>・温泉券の配布(実施済み)</p> <p>・式典の時間短縮(実施済み)</p> <p>・令和6年度に団員定数の見直し(800人→675人)を実施した。</p> <p>・令和7年度現在639人と定数を下回っている。団員の平均年齢が上がっている。(令和4年度36.8歳→令和6年度38.3歳)</p> <p>・ポンプ操法等の大会の見直しや、負担となっている活動等を見直ししている。</p>	<p>・団員や家族の負担軽減を進めながら、消防団に加入しやすい環境づくりを整えていく。</p> <p>・良いイメージを作り、地域コミュニティの場として入りやすい消防団づくり。</p> <p>・ポンプ操法大会等、予選会を開催せず当番制にするなど団員の負担軽減が必要。</p> <p>・競技性も大切だが、緊急時に対応できる能力を磨くことも大切。</p> <p>・区や経験者のバックアップや地元企業に協力を得る。</p> <p>・区の役員で防災班はあるが、消防団はあくまでもボランティア、任意という位置付けであるため、消防団も時代に合わせた在り方を検討する。</p>	<p>総務部 (消防課)</p>
<p>○近所づきあい・支えあい</p> <p>・コロナを契機に公民館活動など地域の活動が大きく変わってしまった。</p> <p>・引っ越し(移住)てきても地元住民との交流の場がない。</p> <p>・人間関係が大きく変わってしまった。</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>・分館研修会等を通じて地域活動を促す。</p>	<p>企画振興部 (地域づくり支援課)</p>
<p>○コミュニティの若返りについて(意見のみで終了)</p> <p>・東御市の魅力をより広く発信し、外から市を知ってもらうことが必要である。宿泊施設が少ない課題はあるものの、長期滞在できる仕組みを整えることで、東御市の魅力を感じるきっかけをつくり、移住・定住者の増加につなげていくことが望まれる。</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>・地域で出された意見を集約する。</p>	<p>企画振興部 (地域づくり支援課)</p>

出された意見	地域で出来ること	市で出来ること	今後の市の方向性	関係部 (関係課)
<p>② 児玉山整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理が大きな課題となっている。整備後も、手を入れないとすぐに荒れてしまう状況である。 ・児玉山は個人所有の山であるため、一般の方が自由に立ち入ってよいのか判断が難しい。 ・イベントを通じて関心を持ってもらった後も、所有者の理解を得ながら丁寧に周知していく必要がある。 ・特に小さな子どもについては保護者同伴が必須だが、今後、自然の中で探求しながら家族で思い切り遊べる場所として発展してほしいという意見もあった。 ・地域づくりの会メンバーだけでは高齢化しており、若手を仲間に入れて活動していきたい。 ・親子で参加できる児玉山を活用したイベントを実施して興味を持って貰う必要がある。 ・1～6号まである古墳の整備による補助金を出して貰えば持続性が出てくる。 ・小学生全体を巻き込んで活用してほしい。 ・草刈り・木の伐採などの管理が課題。(今後どのようにしていくか。) ・和地区の住民でも児玉山の存在を知らない住民も多い。 ・遊歩道等を整備しても歩く人(使う人)がいないと意味がない。 ・近くにはワイナリーや大田区休養村など多くの観光資源がある。 ・和小学校だけでなく他地域の小学校にも使ってほしい。 ・熊対策を行い安心して利用できるようにしてほしい。 ・保育園児には歩いて遊びに行くことが困難。 ・親子で遊べるような空間になるよう整備を続けてほしい。 ・遊歩道の整備は、冬が明ければまた同じところをという感じでなかなか進まない。 ・ようやく駐車場は整備できたが遊び場はできていない状況。 ・水道やトイレがないと長時間の活動(キャンプ等)は難しい。 ・長野県森林づくり県民税の補助期間には限りがある。 ・樹高が高くなりすぎてしまっているため、山頂でもあまり眺望が良くない。 ・小学校では6年生が古墳観察、4年生が総合的な学習の時間で里山体験をしている。 ・小学校から歩いていくには遠く、県道も近く危険なため、友だち数人で行くのは向いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海善寺北区長からの意見、「区で実施している『歩こう会』の開催場所として、今後児玉山を訪れてみたい。 ・児玉山のマップを回覧で配布し周知もできそう。 ・過去には和おやじの会が整備活動に参加し、作業が非常に効率的に進んだ経緯もある。小学校も授業の一環として関わっており、今後はPTAや地域ボランティアの協力を得ながら整備や維持を行うことも検討する。 ・整備活動への参加を促すための働きかけについて検討する。 ・現在4年生の子ども達が授業で活用している。 ・他学年については学校やPTAと検討する。 ・和小学校のおやじの会等の支援。 ・整備のしづらい高木をやめて、扱いやすい木や中低木に変えていく検討を図る。 ・整備の継続、魅力あるイベントの企画・発案検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の広報紙やホームページ等を活用して、児玉山の魅力を広く発信し、周知を図る。 ・出来上がったマップを配布し地域へ周知を行う。 ・カブトムシなど昆虫が集まる場所を作り、子ども達が行きたくなる里山の整備。 ・児玉山を活用したイベントの実施。 ・熊対策については、猟友会と協力し、檻の設置などで対応している。 ・メール配信等による情報発信・情報提供を実施し注意喚起を行っている。 ・木の植替えのための、緑化木は配布可能だが、これも基金に限りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児玉山の魅力を対外的に発信しつつ、地元でも整備に関わる人材を幅広く募り、持続的に維持管理できる体制を検討する。 ・保育園や学校と調整し、持続可能な里山づくりとしての児玉山の活用について協議していく。 ・魅力あるコースづくりや地域でアイデアを出し、PRの発信、持続可能な整備事業を推進していく。(遊歩道の有効活用など) ・地元区での担当整備区域の見直しを図る。 ・児玉山は個人の森林であるため大規模な整備や継続した取り組みには地権者の許可が必要となるため調整を図る。 ・山を守るというより遊び場としての利活用の検討を図る。 ・イベントに来てくれた子どもたちがやりたいことをヒアリングし、整備に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画振興部 (地域づくり支援課) 産業経済部 (農林課) 教育部 (教育課) (保育課)

地域づくり懇談会簡易議事録 【北御牧地区】 (R7年10月21日実施)

参加者 : 合計 72名 内訳: 地域づくりの会10名、区長15名、市議会議員4名、一般市民5名、職員38名 (関係課25名、地域づくりサポーター13名)

傍聴者 なし

懇談テーマ ① 北御牧地区における防災について ② コミュニティの再構築の必要性について

出された意見	地域で出来ること	市で出来ること	今後の市の方向性	関係部 (関係課)
<p>① 北御牧地区における防災について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風19号での床下浸水(大日向区) ・2014年の大雪被害 <ul style="list-style-type: none"> →除雪が追い付かず、身動きが取れない状態だった。 ・行政にできること、地域にできることを棲み分けて考えて、ただ待つだけではない姿勢が大切ではないか。 ・8/31の防災訓練 <ul style="list-style-type: none"> →器具庫の中に何があるかを知らない人が多かった。訓練で手順を忘れていないことに気づいた。 ・北御牧は地域的に災害が少ない。 <ul style="list-style-type: none"> →危機感の低下、防災意識の維持が難しい。 ・避難場所とされている地区公民館 <ul style="list-style-type: none"> →エアコンを使用するとヒューズがとぶ、そもそもエアコンがない。 →等避難場所として適していない、整備が必要。 ・消防団員の確保が難しい。 ・自衛消防へのシフト。 <ul style="list-style-type: none"> →保険の問題があるので市に対応を検討してもらいたい。 ・台風19号の記憶から災害等による避難は早めのアナウンスが必要。 ・公民館が避難場所となっているが、公民館が安全でない場所もある。 ・レベル3で避難所の開設。防災ラジオの活用。 ・備蓄品(非常食)は橋が落ちる等あった際に北御牧地区にも届くのか。 ・八重原台地や御牧原台地は水害等の災害が少なく防災訓練等を実施しても何のために訓練しているのか緊張感を持って訓練が行えないのが現状。 ・災害に備えて水等を備蓄のために購入したがハザードマップ上危険区域に入るので、実際に災害が発生した場合、備えた備品が安全であるか心配。 ・田楽平区は、区民数も少ないため参加率も高く、防災意識が高い。 ・高齢者が多いため、市からの情報はもっと単純化・分かりやすくしてほしい。 ・災害が発生した際、どこへ避難したら良いかなど市民へもっと周知してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民による生活道路の除雪の実施。(2014年当時、消防団にも協力してもらい、除排雪、消防団による家に残っている人の見回りを実施いただいた) ・家族間での意識共有を図る。(どういふことを共有すべきかを行政と目線合わせすべき) ・家族単位で何が出来るかを整理する。 ・区内での情報共有事項を精査する。 ・災害時にどこに逃げるか、避難時のルールを家族で決めておく。 ・消防団と連携した自衛組織を検討する。 ・各区の危険個所の確認やマップの作成。(そこに住んでいる人が一番危険個所を把握しているので) ・近隣で声を掛け合って早めの避難。 ・防災意識を持った訓練等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年当時、市では職員による道路パトロールをした。(立ち往生している車の救助等) ・除雪に関して主要道路の業者委託、生活道路の除雪補助金等の支援。 ・SNS等を利用した緊急時の避難経路情報の迅速な発信。 ・避難所先の公民館へのエアコン設置支援。 ・避難経路の確保に努める。 ・自衛組織への支援。 ・防災訓練や出前講座の実施。 ・災害等早い段階でのアナウンス、周知。 ・備蓄品については各所に配置している。 ・災害が発生した際の避難先や行動等の分かりやすい資料の作成と市民への周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害のレベル分けをして、段階ごと市や地域の役割を確認、相互で認識の共有ができると良い。(例:パンフレットの作成) ・大まかな分担は必要だが、いざという時は臨機応変に対応し、できる人ができることを周知していきたい。 ・10年前の大雪では自然と地域での相互の助け合いが出来ていたもので、同様に見えるようにコミュニティを醸成していく。 ・各地区ごと危険個所の確認を行う。 ・災害時に助け合えるコミュニティづくり。 	<p>総務部 (総務課)</p>

出された意見	地域で出来ること	市で出来ること	今後の市の方向性	関係部 (関係課)
<p>② コミュニティの再構築の必要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化や区の面積の広さから、公民館に集まることが難しくなっている。 <ul style="list-style-type: none"> →いきいきサロンや高齢者クラブも活動の限界を迎えている。 ・世帯数が少ない区では、全員に呼びかけても集まらない、若い人がいない状況。 <ul style="list-style-type: none"> →コミュニティ再構築の対策をすることができない、若者を呼び込めるシステムがあれば良いがそういったこともない。 ・区の統合について、10年前くらいに話があがったが、寸前で立ち消えてから音沙汰がなくなってしまった。 <ul style="list-style-type: none"> →反対する人はいるが、誰かが旗振りをしないといけない、市主導でないと難しい。 →区の歴史を度外視し進めることはできないため、経緯をよく知り、リーダーシップをとれる人がいないと難しい。 ・区民が減少し区として機能維持が困難であるため合併せざるを得ない。 ・ひとりでも反対する人がいると困難 ・定年の延長による影響が大きい。 ・隣組・区が機能しなくなる未来が見えてきている。 ・コミュニティの形が変わってきている。 ・今あるものを崩しての再構築ではなく、核となる人を探し、その手伝いをするというやり方もある。 ・個と個を繋ぐコーディネーターが必要。 ・区の役の負担が大きく、働きながらでは出来ないことが多い。若い人にこそ活躍して欲しいが、それが出来ないのが現状。 ・人口減少とコミュニティの再構築は分けて考えるべき ・人口を増やすなら外から呼び込むことも考えるべき ・役員数が多すぎるので、区で必要な役員を選択させて欲しい。 ・担い手不足や行事等でのボランティアの確保について市からの声掛けや周知をして欲しい。 ・区の役員の担い手が少ない。 ・今回の地域づくり懇談会でもそうだが、女性の参加率が少ない。 ・地域のことを話し合うのであればもっと女性の参加率を上げた方がよい。 ・年齢層もせまくも若世代の方の参加率も上げたほうがよい。 ・各家庭から役員を出しても男性ばかりになってしまう。(昔からの流れ) ・逆に男性が引き受けない場合に女性が役員になるパターンもあるのではないかな。 ・いきいきサロン等の役員がほとんど高齢者。 ・コミュニティの仕事をみんな引き受けようとしんない。 ・なぜ役員を引き受けないのか考えるべき。 ・現役で仕事をしていると区の役員との両立は厳しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区でリーダーシップをとれる人を探す。 ・今あるいきいきサロンの支援を行う。 ・区で民生委員に協力し活動を支援する。 ・いきいきサロンなどを活用した新たなコミュニティづくり。 ・各家庭でも女性が参加しやすい環境づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の意見を吸い上げながら繋いでいくコミュニティソーシャルワーカーの育成を検討。 ・区の役等の負担を減らす見直し。 ・地域づくりサポーターの活用。 ・役員負担軽減。 ・地域福祉としてB型事業を活用した様々な人が交じりあえるコミュニティづくりに力を入れている。 ・いきいきサロンなど区民の交流を支援。 ・市で役員等の負担軽減を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAや消防団が再編できたように、広域的な活動や改革ができるか話し合いを進める。 (福祉課) ・いきいきサロンの持続可能な運営体制づくりのため、地域主体の通所型サービスB事業への移行を推進する。 ・福祉課題の解決を図るためのコミュニティソーシャルワーカーの養成に取り組む。 ・高齢者等日常生活サポート事業や生活支援コーディネーターによる支え合いの仕組みづくり活動を推進し、見守り体制の充実と地域力の向上を図る。 ・役員等の選択制について、区と市と必要性を協議しながら決めていきたい。 ・会議や懇談会を開催する場合、女性や若者が参加しやすい期日や時間帯を検討する。 ・郷づくり協議会や各区等へアンケートを実施し、実情把握、過去に取り組んだ事例を参考に共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画振興部 (地域づくり支援課) 健康福祉部 (福祉課)